

A区分・C区分共通  
No.1(実演芸術・メディア芸術)

令和6年度舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)出演希望調書(実演芸術・メディア芸術 共通)

分野、種目(該当する分野、種目を選択してください。)

分野	伝統芸能	種目	歌舞伎・能楽
----	------	----	--------

申請区分(申請する区分を選択してください。)

申請区分	A区分
------	-----

複数申請の状況(該当するものを選択してください。) ※B区分継続団体については、申請企画数から除く

複数申請の有無	有	申請総企画数	2企画
---------	---	--------	-----

複数の企画が採択された場合の実施体制(該当するものを選択してください。)

※複数申請の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません。(グレーアウトされます。)

複数の企画が採択された場合の実施体制	公演の実施時期が重複しなければ、複数の企画を実施可能
--------------------	----------------------------

芸術文化団体の概要

ふりがな 制作団体名	いっばんざいだんほうじんのうがくどうかしょうかく 一般財団法人能楽堂嘉祥閣	団体ウェブサイトURL https://www.kashokaku.jp/
代表者職・氏名	代表理事 井上周久	
制作団体所在地	〒 604-0866 最寄り駅(バス停) 京都市営地下鉄烏丸線丸太町駅 京都府京都市中京区西方寺町160-1	
電話番号	075-222-0618	
ふりがな 公演団体名	いっばんざいだんほうじんのうがくどうかしょうかく 一般財団法人能楽堂嘉祥閣	団体ウェブサイトURL https://www.kashokaku.jp/
代表者職・氏名	代表理事 井上周久	
公演団体所在地	〒 604-0866 最寄り駅(バス停) 京都市営地下鉄烏丸線丸太町駅 京都府京都市中京区西方寺町160-1	
制作団体 設立年月	昭和35年 8月	
制作団体組織	役職員	団体構成員及び加入条件等
	代表理事:井上周久 業務執行理事:浦部好弘、後藤房夫	構成員人数:155名 加入条件:加入希望者のうち代表理事の承認を得た者
事務体制 事務(制作)専任担当の有無	事務(制作)専任の担当者を置く	本事業担当者名 井上由記子、吉田麻衣
経理処理等の 監査担当の有無	有	経理担当者名 井川正隆(税理士)

本申請にかかる連絡先  
(メールアドレス)

mai-monchan@s6.dion.ne.jp

<p>制作団体沿革</p>	<p>大正14年(1925年) 9代目井上嘉介により、旧嘉祥閣舞台を建設。  昭和35年(1960年)財団法人 松声会 設立。  昭和36年(1961年)第二次世界大戦の強制疎開によって失った舞台を、能楽堂「嘉祥閣」として再建。  平成25年(2013年)一般財団法人 能楽堂嘉祥閣に改称し、能楽の育成、普及および発展などを目指した事業を行う。</p> <p>当財団代表理事を務める当代11代目井上裕久は、京都で活動している能楽師が加入する京都能楽会の理事長、また全国の能楽師が加入する能楽協会の本部理事も務め、京都は勿論のこと全国にて能楽の普及および発展の為に活動しています。加えて、京都市観光協会理事として、能楽のみならず日本文化の存続と普及、国際交流に携わり、国立能楽堂の講師として、次世代の育成にも力を入れています。</p>			
<p>学校等における公演実績</p>	<p>50年以上に亘り、年間複数回の公演と、学校へのワークショップ等多数実施。</p> <p>平成30年度 自主公演5回、学校公演 10校  令和元年度 自主公演5回、学校公演 6校  令和2年度 自主公演4回、学校公演 5校  令和3年度 自主公演11回、学校公演 5校  令和4年度 自主公演4回、学校公演8校  令和5年度 自主公演5回、学校公演 6校</p>			
<p>特別支援学校等における公演実績</p>	<p>平成29年 能楽公演1校</p>			
<p>参考資料の有無</p>	<p>申請する演目のWEB公開資料</p>	<p>有</p>		
	<p>※公開資料有の場合URL</p>	<p>狂言「柿山伏」  <a href="https://youtu.be/6v7SjgLAfD8">https://youtu.be/6v7SjgLAfD8</a>  能「船辨慶」  <a href="https://youtu.be/MLinzPV5J50">https://youtu.be/MLinzPV5J50</a>  (リンクを知っている人のみの限定公開)</p>		
	<p>※閲覧に権限が必要な場合のIDおよびパスワード</p>	<p>ID:</p>		
		<p>PW:</p>		

## 公演・ワークショップの内容

【公演団体名 一般財団法人能楽堂嘉祥閣 】

対象	小学生(低学年)	○	/		
	小学生(中学年)	○			
	小学生(高学年)	○			
	中学生	○			
企画名	日本の文化を体験！演者の一員に!?能「船辨慶」と狂言「柿山伏」				
本公演演目 原作/作曲 脚本 演出/振付	能「船辨慶」と狂言「柿山伏」 <b>【1部】</b> 1) 始まりのご挨拶と話 5分 2) 狂言「柿山伏」実演 15分 3) 囃子「獅子」実演 5分 4) 囃子のリズムに合わせて校歌斉唱 5分 5) 囃子の説明と小鼓体験 8分 6) 狂言「三番三(さんばそう)」実演 7分 --- 休憩5分 --- <b>【2部】</b> 1) 舞発表 7分 2) 能「船辨慶」実演 28分 3) 質問と終わりのご挨拶 10分		紅色の装束を着ているのが子 方です。代表者には同じよう な装束を着て子方役をつとめ てもらいます。		公演時間 90 分
著作権、上演権利等 の 許諾状況	各種上演権、使用権等の許諾手続きの要否	該当あり	該当コンテンツ名	ワークショップ時に配るあらすじコミック	
	該当事項がある場合	権利者名	許諾確認状況	使用(上演)許諾取付済	
		あらすじコミック: 星亜紀子			
演目概要	<p>◆狂言「柿山伏」…修行を終え故郷に帰る山伏は、空腹のあまり途中にある柿木に登り実を食べます。それを見た柿の木の持ち主は山伏をからかい、山伏は柿の木から落ち、けがを！持ち主が帰ろうとすると、山伏の法力で今度は持ち主が！持ち主に自分を担がせ去ろうとする山伏は最後に逆に仕返しされます。</p> <p>◆能「船辨慶」…源義経は頼朝と仲違いをし、西へ落ち延びる途中大物の浦の宿に泊まり、静は帰京を言い渡されます。別れの宴では静が舞い、その後涙にむせぶ姿は皆の哀れを誘います。船を漕ぎ出す一行に、平家の亡霊が現れ平知盛の怨霊が襲いかかります。義経は刀で応戦、辨慶が数珠を揉み神仏に祈り、船頭達も必死で船を岸に寄せます。やがて悪霊は退散し引き潮と共に流れ去り、跡には白波だけが残ります。</p>				
演目選択理由	<p>◆「柿山伏」…小学校の教科書にも掲載されストーリーも簡潔で分かりやすく、初めてでも楽しく笑いながら観てもらいやすい為</p> <p>◆「船辨慶」…登場人物が多く、長刀や太刀を使う派手な演目です。また、源義経・辨慶など馴染み深い登場人物であることから、一曲を通してストーリーの理解がしやすく、楽しく鑑賞しやすい為</p>				
児童・生徒の共演、参加又は体験の形態	1) 校歌を斉唱してもらうなか、囃子を打ち、謡・囃子を身近に感じてもらう 2) 代表者に舞台上で仕舞の発表をしていただき、全生徒もフロアで謡を謡い振り返りを行う 3) 鼓の体験をエアーで全員行うなか「三番三」が始まり、一曲を通して共演者として演奏してもらう 4) 「船辨慶」の子方を、装束を着て演者の一人として代表者に演じてもらう				
出演者	<p>◆シテ方: 井上裕久(井上周久)、佐伯紀久子、井上裕之真、吉浪壽晃、寺澤幸祐、浦部幸裕、味方團、松井美樹、吉田篤史、松野浩行、宮本茂樹、鷺尾世志子、河村浩太郎、樹下千慧、藤井丈雄、笠田祐樹、寺澤拓海より10名 ◆ワキ方: 岡充、有松遼一、原陸より2名 ◆笛方: 森田保美、左鴻泰弘より1名 ◆小鼓方: 久田陽春子、林大輝より1名 ◆大鼓方: 石井景之(増井保彦) ◆太鼓方: 井上敬介</p> <p>◆狂言方: 茂山千五郎、茂山茂、茂山逸平、茂山千之丞、島田洋海、井口竜也、鈴木実、山下守之より2名</p> <p>(※1 __は重要無形文化財保持者(総合認定) ※2 別途、別添資料No.2別紙メンバー表あり)</p>				
本公演 従事予定者数 (1公演あたり) ※ドライバー等 訪問する業者人数含 む	出演者: 18 名	運搬	積載量: 1.5 t		
	スタッフ: 0 名		車長: 11.5 m		
	合計: 18 名		台数: 1 台		



本公演 会場設営の所要時間 (タイムスケジュール) の目安	前日仕込み	無	前日仕込み所要時間			時間程度
	到着	仕込み	上演	内休憩	撤去	退出
	12時	12時～13時	13時30分～15時05分	5分	15時05分～16時	16時
※本公演時間の目安は、午後、概ね2時間分程度です。						

本公演 実施可能日数目安  ※実施可能時期については、採択決定後に確認します。(大幅な変更は認められません)	6月	7月	8月	9月	10月	
	15日	9日	9日	8日	13日	
	11月	12月	1月	計	88日	
	12日	13日	9日			
	※平日の実施可能日数目安をご記載ください。					

児童・生徒の 参加可能人数	本公演	共演人数目安	10～500名(舞台に特別に上がる生徒は10名強)
		鑑賞人数目安	10～500名

①【公演イメージ(ステージ上)】




②【公演イメージ(フロア上)】



公演に係るビジュアルイメージ  
(舞台の規模や演出がわかる写真)

※採択決定後、図面等の提出をお願いします。

※実際の能舞台には五色の幕や橋掛かり・松があり、正面には老松、脇には竹が描かれ、柱が立てられています。私達の公演ではステージ上(ステージがない場合には体育館のフロア上)にその全てを作り、能舞台の雰囲気を感じていただこうと思います。具体的には、松や竹の鏡板や五色の幕を目立たせ、周りに暗幕を張り、舞台左側の欄干際の松の量を増やして能楽堂独特の松の雰囲気をもつよう工夫しています。

児童・生徒の参加可能人数	ワークショップ	参加人数目安	10名～500名
ワークショップ 実施形態及び内容	<p>標準:90分</p> <p>①装束付け(20分) 学校の先生に本公演で行う「船辨慶」のシテの装束を着付けながら能楽について解説も同時に行います。</p> <p>②謡稽古「船辨慶」(15分) 本公演で児童・生徒全員に謡ってもらい船辨慶を稽古します。</p> <p>③仕舞「船辨慶」(10分) 児童・生徒全員に先で稽古した船辨慶を謡ってもらい、引き続き、そのまま船辨慶を演じるのを、ご覧いただきます。</p> <p>(休憩)</p> <p>④能の配役と様々な面についての話(15分) 能の囃子や狂言など、様々な配役について、写真等を用いて、知ってもらい、また代表的な面を見せ、児童・生徒たちに面をつけていきます。</p> <p>⑤舞の稽古「船辨慶」(30分) 本公演で発表してもらい船辨慶を児童・生徒全員で、まずは扇の持ち方、歩き方から稽古します。 ※船辨慶に子方として本公演に出演する児童・生徒は、⑤の時間に、別途船辨慶の稽古をします。</p>		
ワークショップのねらい	<p>児童・生徒にとっての初めて出会う能楽が難しく感じないように、話を極力短くし、装束や面を見せて、まずは興味を持ってもらえるようにします。</p> <p>また、本公演と連動させ、ワークショップ時に稽古した事を本公演にて発表してもらうことにより、本公演時に、より楽しかったと思ってもらえるようにします。</p>		
その他ワークショップに関する特記事項等	<div data-bbox="550 2034 1070 2284" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【参考】 本公演で実演する「船辨慶」のあらすじをより理解しやすいように、ワークショップ時に配布するあらすじコミック</p> </div> 		



本事業への申請理由

【公演団体名 一般財団法人能楽堂嘉祥閣】

本事業に対する  
取り組み姿勢、および  
効果的かつ円滑に実施  
するための工夫

### ①本事業に対する取り組み姿勢

700年の歴史をもつ世界最古の芸能「能楽」は、第一回世界無形文化遺産に登録される等、世界が認める伝統文化です。また近年、日本の学校教育の現場にて伝統芸能に対する教育が重視され、文化的な側面だけでなく、伝統芸能がもつ教育的な価値がますます注目されています。しかし一方で、長い時間の中で“極みの美”として様式化された為、とりわけ子供達にとっては、分かりづらいもの、敷居の高いものとなっていることも事実。分かりづらい事は、無関心を生んでしまいます。

能楽は、そもそも当時の民衆の娯楽として、また日々の生活の中でおこる思いや感情を表現する手段として相互補完的に発展してきた、大衆芸能です。そこには、現代の人々にも十分に理解できる、生活にまつわるエンターテイメントが底流しています。また能楽はその様式化の過程で、演者の所作や舞台は敢えて簡素化し、観る人の想像力を借りることで成立する芸能として発展してきました。能楽には、観る人の想像力を刺激するクリエイティビティが仕掛けられています。

私ども能楽堂嘉祥閣は、本事業を、子供達が日本の伝統芸能に関心を持ち、理解するきっかけの場として認識しています。その為、質の高い能楽の実演・鑑賞体験の提供に加え、鑑賞体験をより深いものへと昇華し、能楽の世界観をよりリアルに感じる事の出来るよう、気づきのプログラムを重視します。能楽は、当時の民衆が日々の暮らしを逞しく生活していくための知恵として創り出した物語や表現です。これらの物語や表現の様式を現代的なツール(あらすじコミック)を使用して学習・体験する事は、想像力豊かな子供達にとっては、多様な能楽観が生まれ、そこに伝統芸能の未来に対する様々な可能性が生まれると考えます。

そして子供達に、より豊かな感性を育てていただく為、特に演者との共演機会をできる限り増やし、一演目を通して全員で演奏したりし、芸術鑑賞能力の向上を図ります。

### ②事業を効果的かつ円滑に実施するための工夫

(1)事前に開催校に電話連絡し、ワークショップにおける会場の設営など準備について説明する。

(2)当日配布する資料の準備などを事前にメール連絡する。更に事業を円滑に執り行うため、当財団blogを御覧いただく。過去に行った学校でのワークショップや本公演の活動を載せているので、自分の学校でのワークショップや本公演の参考にしよう。

(3)ワークショップ当日は開始の1時間前に会場入りして、公演の準備をする。

(4)ワークショップ当日、本公演が円滑に行えるよう打ち合わせを行う。本公演終了後も学校からの問い合わせがあれば、電話やメールにて対応する。

(5)本公演当日、開演2時間前に会場入りし、公演の準備をする。

No.2 別紙メンバー表 (1/4)

【公演団体名：一般財団法人能楽堂嘉祥閣】

※芸名で活動している者は、「芸名(本名)」で氏名を記載しています。

<p><b>井上 裕久 (井上 周久)</b> (昭和30年生まれ) 能楽師 シテ方観世流職分 重要無形文化財保持者(総合認定) (公益社団法人)能楽協会 理事 (公益社団法人)京都観世会 専務理事 (公益社団法人)京都市観光協会 理事 (一般財団法人)能楽堂 嘉祥閣 代表理事 (一般社団法人)京都能楽会 理事長 国立能楽堂三役養成事業 講師 平成30年度 京都府文化賞功労賞受賞</p>
<p><b>佐伯 紀久子</b> (昭和21年生まれ) 能楽師 シテ方観世流準職分 重要無形文化財保持者(総合認定)※女性として初めての認定を受ける (一般財団法人)能楽堂嘉祥閣 評議員 [主催公演]平成17年「第5回佐伯紀久子之会」 第60回文化庁芸術祭演劇部門「芸術大賞」受賞 平成18年度 兵庫県「文化功労」受賞 平成19年度 「神戸市文化賞」受賞 平成27年度 神戸新聞平和賞「文化賞」受賞</p>
<p><b>井上 裕之真</b> (平成3年生まれ) 能楽師 シテ方観世流準職分</p>
<p><b>吉浪 壽晃</b> (昭和40年生まれ) 能楽師 シテ方観世流準職分 重要無形文化財保持者(総合認定) (公益社団法人)能楽協会京都支部 常議員 (公益社団法人)京都観世会 理事 (一般財団法人)能楽堂嘉祥閣 評議員</p>
<p><b>寺澤 幸祐</b> (昭和44年生まれ) 能楽師 シテ方観世流準職分 重要無形文化財保持者(総合認定) (公益社団法人)能楽協会大阪支部 常議員</p>
<p><b>浦部 幸裕</b> (昭和42年生まれ) 能楽師 シテ方観世流準職分 重要無形文化財保持者(総合認定) (一般社団法人)京都能楽会 理事</p>



No.2 別紙メンバー表 (2/4)

【公演団体名：一般財団法人能楽堂嘉祥閣】

<p>味方 團 (昭和44年生まれ) 能楽師 シテ方観世流準職分 重要無形文化財保持者(総合認定) [主催公演]第8回能楽「鏡座」公演「道成寺」 平成16年度名古屋市民芸術祭賞受賞 伝統芸能部門</p>
<p>松井 美樹(木村 美紀) (昭和44年生まれ) 能楽師 シテ方観世流準職分 重要無形文化財保持者(総合認定) (公益社団法人)京都観世会 理事</p>
<p>吉田 篤史 (昭和49年生まれ) 能楽師 シテ方観世流準職分 重要無形文化財保持者(総合認定)</p>
<p>松野 浩行 (昭和49年生まれ) 能楽師 シテ方観世流準職分 重要無形文化財保持者(総合認定)</p>
<p>官本 茂樹 (昭和50年生まれ) 能楽師 シテ方観世流準職分 重要無形文化財保持者(総合認定) (公益社団法人)能楽協会京都支部 常議員</p>
<p>鷲尾 世志子(橋本 世志子) (昭和50年生まれ) 能楽師 シテ方観世流準職分 重要無形文化財保持者(総合認定) (公益社団法人)京都観世会 理事</p>
<p>河村 浩太郎 (昭和60年生まれ) 能楽師 シテ方観世流準職分</p>
<p>樹下 千慧 (昭和62年生まれ) 能楽師 シテ方観世流準職分</p>
<p>笠田祐樹 (平成2年生まれ) 能楽師 シテ方観世流準職分</p>
<p>藤井 丈雄(勇海 丈雄) (昭和50年生まれ) 能楽師 シテ方観世流準職分</p>
<p>寺澤 拓海 (平成11年生まれ) 能楽師 シテ方観世流研修生</p>

No.2 別紙メンバー表 (3/4)

【公演団体名：一般財団法人能楽堂嘉祥閣】

岡 充 (昭和60年生まれ) 能楽師 ワキ方高安流 (公益社団法人)能楽協会京都支部 常議員
有松 遼一 (昭和57年生まれ) 能楽師 ワキ方高安流
原 陸 (平成9年生まれ) 能楽師 ワキ方高安流
森田 保美(西村 保美) (昭和38年生まれ) 能楽師 笛方森田流 重要無形文化財保持者(総合認定) (公益社団法人)能楽協会京都支部 常議員 (一般社団法人)京都能楽会 理事
左鴻 泰弘 (昭和41年生まれ) 能楽師 笛方森田流 重要無形文化財保持者(総合認定) (一般社団法人)京都能楽囃子方同明会 理事
久田 陽春子(寺澤 陽春子) (昭和48年生まれ) 能楽師 小鼓方大倉流 重要無形文化財保持者(総合認定) 平成16年度 大阪舞台芸術新人賞
林 大輝 (昭和59年生まれ) 能楽師 小鼓方幸流
石井 景之(増井 保彦) (昭和39年生まれ) 能楽師 大鼓方石井流宗家 重要無形文化財保持者(総合認定) (一般社団法人)京都能楽会 理事
井上 敬介 (昭和30年生まれ) 能楽師 太鼓方観世流 重要無形文化財保持者(総合認定) (公益社団法人)能楽協会京都支部 常議員

No.2 別紙メンバー表 (4/4)

【公演団体名：一般財団法人能楽堂嘉祥閣】

<p>茂山 千五郎(茂山 正邦) (昭和47年生まれ) 能楽師 狂言方大蔵流 重要無形文化財保持者(総合認定) (公益社団)能楽協会京都支部 常議員 平成10年度 大阪市咲やこの花賞受賞 平成17年度 文化庁芸術祭新人賞受賞 平成20年度 京都府文化賞奨励賞受賞</p>
<p>茂山 茂 (昭和50年生まれ) 能楽師 狂言方大蔵流 重要無形文化財保持者(総合認定) (一般社団法人)京都能楽会 理事 平成23年度 京都府文化賞奨励賞受賞</p>
<p>茂山 逸平 (昭和54年生まれ) 能楽師 狂言方大蔵流 重要無形文化財保持者(総合認定) 平成22年度 京都市芸術新人賞受 平成27年度 京都府文化賞奨励賞受賞</p>
<p>茂山 千之丞(茂山 童司) (昭和58年生まれ) 能楽師 狂言方大蔵流 平成30年度 京都府文化賞奨励賞受賞</p>
<p>島田 洋海 (昭和51年生まれ) 能楽師 狂言方大蔵流</p>
<p>井口 竜也 (昭和51年生まれ) 能楽師 狂言方大蔵流</p>
<p>鈴木 実 (昭和53年生まれ) 能楽師 狂言方大蔵流</p>
<p>山下 守之 (昭和51年生まれ) 能楽師 狂言方大蔵流</p>